

2-3. 再生まちづくりの担い手となる図書館

(1) 図書館は再生まちづくりの重要な担い手です。

多摩市民の暮らしに役立つ魅力的な図書館があることは、多摩の旧市街やニュータウンの再生まちづくりに、役割をはたします。故郷への帰属感をみんなで大切にするコミュニティを育てます。

- ① **多摩市の魅力向上：** 良い図書館の存在は、居住地選択の上位の要因と言われています。魅力的な図書館が身近にある多摩市は、住みたい都市となります。人口が微増の多摩市ではありますが、人口の社会減をくい止めます。
- ② **出会いの結節点：** 人口の構成では高齢化が進む多摩市ですから、若い所帯の移入が期待されています。団地の建て替えや住み替えでは、暮らしに活気や利便性、出会いの機会を提供する図書館が人口誘引の要素になります。
- ③ **多世代交流の広場：** 多様な世代が交流して、さまざまな都市活動で、都市に活気が求められるとき、図書館は活動を受け入れる「ひろば」になります。情報、もの、こと、に出会い、自分を確かめるサードプレイスです。
- ④ **地域コミュニティの相談者：** 若い世代、新しい世帯が、多摩市で暮らして、さまざまな課題の解決に困ったとき、図書館は「地域のコミュニティの相談者」になります。相談者として信頼に足る図書館員が待っています。
- ⑤ **ふるさと多摩市の記憶装置／情報発信基地：**
ニュータウン市民が地域に帰属感をもち故郷を感じられる街づくりは、開発構想の悲願でした。個人の幸せは自己実現だけではなく、故郷に帰属して、孤独を離れ安心を手に入れることができます。図書館は、新旧の住民みんなの「ふるさと多摩市の記憶装置」になります。そして「ふるさと多摩市の情報発信基地」として市民活動を支えます。

(2) 新しい中央図書館は中心市街地活性化・魅力化の役に立ちます。

① 中心地に都市の求心力を育てる。

新中央図書館の候補地の最寄り駅となる多摩センター地区の市民生活の求心力に貢献します。駅からパルテノン多摩、中央公園、新中央図書館へと続く、魅力的なプロムナード環境、そして将来の「知の地域創造」エリアに、市民全体の意識を向かわせるマグネットが、新中央図書館です。

② 歩行者動線の新しいフォーカスとなる。

中央図書館候補地は、ニュータウン歩行者専用路網の南のフォーカスに並ぶ構想です。魅力的な新しい活動の拠点が、この焦点にセットされて、多摩センター駅から南側に遠い住宅地からの歩行者や自転車動線もこの求心点に集まって、自宅と駅間のバスの往復移動にも変化が起きるでしょうか。コミュニティバスの停留所もほしいフォーカス拠点です。



料理を持ち寄り図書館集会室でパーティ



開架室で、コーラスのイブニングコンサート



みんなで、絵本作家さんとお話をする



芝生の築山を客席に、図書館員が昔風の紙芝居

※図書館は都市に住む者のサードプレイスともいわれています。自宅と職場や学校以外に、定まった居場所を持たない都市の通勤通学者にとって第3の居場所となる意味があります。

※現在の本館が再構築された施設を、中央図書館と呼ぶか本館とするか、これも今後の検討課題です。中央館の機能を持つ本館と言われる市民もいます。基本構想では、2章以降の提言部分これは、これを中央図書館、分館を地域館拠点館図書館と整理して呼んでいます。

2-4. あたらしい多摩市立図書館全体への提言

(1) あたらしい多摩市立図書館システムへの提言

多摩市の図書館全体運営のあり方、また個別に、新中央図書館、駅前拠点図書館、地域図書館、それぞれの運営の在り方について、数々の提言を整理しておきます。

このたびの基本構想では「あたらしい多摩市立図書館への提言」を策定委員会や行政・市民グループヒアリングで広範に集めることができました。それら提言をチャート形式で次頁に整理してあります。

(2) 全体の図書館運営に関わる3要素のマネージメント

○資料・情報の構築と配置再編と管理について：

- ・中央図書館には、一箇所ですべての資料にもつながる蔵書、専門的で奥行きのある蔵書、調査や郷土や行政資料の充実が一般的です。
- ・地域館拠点館には、複本としての子どもや成人むきの基本的図書を揃え、奥行きのある資料は中央館から取り寄せます。新聞や雑誌などのニュース情報はインターネット端末とともに備えたいところです。

○職員・組織の構成と配置再編と管理について：

- ・中央図書館ができて、現職員の数を大きく増員はできません。
- ・中央図書館には、企画運営、蔵書構築、地域奉仕、直接サービスなど専門的で多方面の業務に、合理的な職員編成を行います。
- ・地域館拠点館では、貸出し、子どもを大切にする奉仕、相談業務、地域社会連携など、これら全領域の業務を精鋭の少人数で対応する必要があります、専門性総合性を備えた常勤の館長が期待されます。

○施設・環境の配置と役割再編と管理について：

- ・中央図書館の施設環境に求められることは3章で述べています。
- ・分館の地域館や駅前拠点館についても、本館整備に合わせて、順次見直しや充実が必要になるかもしれません。本棚の配置を工夫してサービスデスクに近接させ中心区域として、読書席やブラウジングなど人の居場所を拡大し、滞在型に充実させてゆきたいところです。

○経営バランスの企画調整と、投資対行政効果の検証について：

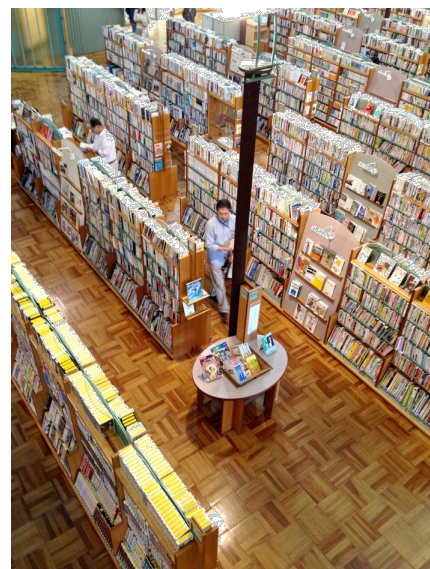
- ・各館の休館日（曜日）や開館時間をずらすなどして、利用者の不便が大きくなるようにしつつ、運用経費を圧縮できるような改革を工夫し、資料費の拡大分の捻出や直営の持続を図りたいものです。
- ・先進他市で見られる毎年の図書館歳費と行政効果（市民サービス）の検証と情報開示、翌年度への重点事業項目への反映も必要です。

(3) 図書館協議会など専門的な諮問機関の役割について

- ・図書館協議会は、館長が意見を求めて図書館運営について答申を参考にする重要な機関です。専門性、地域性、社会要望、学校連携、など多様な視点が反映できるように編成の充実が市民から望まれています。
- ・協議会委員には学校長代表もいます。市域全体の図書館活動の一部として学校図書館にも連携や支援の意見を述べますが、学校図書館自体の充実策は、教育委員会や教育担当課の領域です。市立図書館が学校図書館を連動させた他市の事例研究も、今後は必要になるでしょう。

(4) それぞれの図書館の利用者懇談会や友の会など 市民グループとの協働の試み

- ・多摩市では文庫活動など子どもへのお話会や障がい者支援にボランティア活動はありますが、読書会や図書館友の会など市民応援団が本館地域館ともに、先進図書館のように生まれませんでした。
- ・「図書館フレンズ、図書館には友人が必要です。」という、米国は宣伝文がありますが、多摩市の図書館にも友人が期待されます。



おおきな開架室を魅力的にたもつために



お話会という図書館との出会い

2-4. あたらしい多摩市立図書館全体への提言

(策定委員会の意見、協議のベースとなったヒアリングなどから紡ぎだされた提言)

「提言チャート」	資料世界 ＜本・情報＞	図書館員 ＜人・組織＞
図書館本館 ＜中央館＞ ・来館者への直接サービス ・非来館者へのサービス (アウトリーチサービス) (情報系 ICT サービス) ・資料群構築センター (テクニカルサービス) ・政策／企画／総務	カルタ01/本・現本館 ○広い開架スペース(たくさんの開架資料) ○見つけやすく、課題解決につながる資料。 ○世界を体感できる豊かで深みのあるコレクション。 ○児童書を幅広く収集。 ○開架室にある本の出版年、古い物が多い。 ○開架室が広くなると魅力が維持できない。 ○資料費が継続的にある程度必要。 ○将来は電子的資料やデータベースなどが増える。 ○PCネットワーク、情報媒体が今後重要。 ○広い閲覧スペースとWi-Fi環境。 ○有料データベース提供、利用者端末の配置。 ○ESDの観点を図書館にも。 ○学習する上で、学校にある資料では賅えない。 ○予約受付件数が多い。 ○必要な資料が手に取れれば予約をかけなくて良い。 ○働き盛りの世代に需要のある専門性のある資料は中央館に集まっているとより効率的。 ○館ごとの蔵書規模が小さく専門的な資料を置きにくい。30万冊規模になると網羅的に置ける。 ○仕事・資格・働く気持ち応援の資料 ○図書館が市民の問題を支援 ○いじめ、離婚、同性婚など様々な問題に対して図書館がブックリストを作成。 ○行政資料は、中央館で充実。 ○資料の所在を固定していない。 ○館籍を付けて再配置が必要か。 ○資料が返却された図書館に配架されるしくみ、全体の蔵書バランスと資料管理の方向性を検討。 ○地域館からも購入のリクエストは上がるが、本館で選書・見計らいをしている。 ○収書方針 ○多摩市がどのような基準で蔵書を集めてゆくか議論しておいたほうが良い。 ○ベストセラーを早く読みたいという要望と厚みのある蔵書構成になるという論点。 ○行政資料のPR。	カルタ02/人・現本館 ○課題解決型サービス・ビジネス支援 ○新しい話ではない、市民の自己実現への支援。 ○働き盛りの人への高度なレファレンスサービス。 ○レファレンス機能の強化や働き盛りの世代への情報提供の強化。図書館は「ワンストップ窓口」 ○起業、商品開発、就職活動情報、就労、市民一人に図書館組織が応えていく。 ○児童サービス：読み聞かせ、おはなし会 ○ティーンズサービス ○地域向けサービス ○多文化サービス：資料収集を始めたい。 ○高齢者向けサービス：思い出語り回想法 ○SNSなどでの発信も必要。図書館でイベントをやっても知られていない。若者に向けて発信。 ○就業支援で、地元へ根付いた仕事を紹介。若者の定住につながるのでは。 ○学校図書館支援は本館で行っている。 ○行政支援 ○市役所を支援することも重要。市役所の課題は、市民の持っている課題ともオーバーラップする。行政マンが効率よく仕事をすれば、市民の生活も良くなっていく。 ○経済の活性化や市民の健康は、行政の課題。 ○行政ランチ、行政情報の提供や手続きの支援などもできれば良い。 ○介護や健康相談、社会的なサービスについて、なんでも聞ける窓口は、図書館では難しい。 ○課題解決支援ができる「司書の特別養成」 ○資料を活かすには司書の働きが重要。異動のルーレ化含めて、職員を育てる工夫を考えたい。 ○他自治体はどんなサービスをしているか、研究が必要。将来的なことに考えを進めるべき。
図書館分館 ＜拠点館＞ ＜地域館＞ ・関戸 ・東寺方・豊ヶ丘 ・永山 ・聖ヶ丘・唐木田	カルタ05/本・拠点館 カルタ09/本・地域館 ○乳幼児を含めた児童へのサービスを手厚く。 ○高齢者に必要なサービス、医療や健康の情報。 ○新聞雑誌などの更新されるコンテンツを充実。 ○通って楽しいのはベストセラーがたくさん並んでいるような開架室だけではないだろう。 ○資料は司書が考えて揃えるのが良い。 ○調布市や町田市の地域館の蔵書構成 ○地域館の蔵書構成は地域館の職員が責任を	カルタ06/人・拠点館 カルタ10/人・地域館 ○障がい者サービスは中央館に移すのか、永山か。利用者の多いところで行うか検討したい。 ○視覚・精神など様々な障がい、個別にサービスをしなければならない。 ○働き盛りの世代の利用にに応えるには難しい。 ○サービスの質とレベルと規模が共通の問題。
全域奉仕 図書館システム ＜ネットワーク＞ ・行政資料室 ・幼稚園保育園 ・(学校図書館支援) ・病院/老健/包括支援施設	カルタ13/本・ネットワーク ○病院図書室との連携、配本サービス ○患者が前向きになる読書を届ける。 ○市民活動資料、新本館にも置いてほしい。 ○学校図書館から市立図書館の資料の検索ができる。	カルタ14/人・ネットワーク ○学校図書館は、全校司書を配置している。 ○学校図書館に週3回の連絡便運行。互いに資料費はきびしいが、オンライン環境等で支えている。 ○行政資料室に資料は置いているが、活用されるよう工夫ができていない。
	資料世界 ＜世界表現性・地域性＞	図書館員 ＜専門性＞

○「知の地域づくり」「知的地域再生」
図書館計画とまちづくりは重要なテーマ

○基本計画では「もののデザイン」へ。
基本構想では「ことのデザイン」から。

図書館施設 ＜場・環境＞	市民利用者 ＜活動・協働＞	マネジメント ＜運営＞
カルタ03/場・現本館 ○ラーニングコモンズのような市民が交流できる、自由に声を出して議論ができたりするところ。 ○画一的に静かにするのではなく「利用目的によって音環境デザインを変える」 ○メーカースペース：編集、3Dプリンターがあり支える図書館員がいる。開架室にあるとよい。 ○子ども未来会議や中学生サミットを図書館で。 ○未来志向の学習の場。調べる・発表する、会議。 ○20代の若者を誘引する集まりやすい環境づくり。 ○カフェやたまり場、中高生には自習スペースがあると活用される。 ○常設で子ども用の文化財展示スペース ○ふるさとのことを知るができるコーナー ○ベビーカー置き場、おむつ替え、授乳コーナー 子連れの来館をしっかりと迎えたい。 ○おはなしの部屋：読み聞かせの環境。 ○賑やかな子ども開架室が共存できる配置計画を。 ○多摩市で出版しているものは販売したい。中央館で販売コーナーが作れるとよい。 ○図書館を居場所として活用。一人であることができる、邪険に扱われない。人との出会いもある。 ○図書館の利用を情報収集だけでは捉えずに時間をゆっくり過ごすことを提案してもよい。 ○マルチカルチャーを目指すべき。20年後、30年後を見据えた図書館やバルテノン多摩であってほしい。 ○図書館本館は中央公園を大切にしたい配置計画になるように期待したい。 ○公園と図書館が一体になる計画、アプローチで「緑陰読書」ができるようにしたい。 ○歩いて図書館に来る人は公園の道を使ってもらえるように（高低差昇降を）整備してはどうか。 ○自然観察会を図書館で行うこともできるのでは。 ○公園側のアプローチは多様な可能性を秘めている。 ○環境に配慮した「グリーンライブラリー」をめざす。 ○車でのアプローチは大切。（弱者のための車） ○中央館敷地は高齢者にとっては駅から遠く思う。アクセスの補助については大きな課題がある。 ○気軽に魅力ある中央図書館に行けるように、巡回のマイクロバスが運行すると良い。	カルタ04/活動・現本館 ○図書館では障がい者サービスや児童サービスでボランティアが協力。 ○サービスの受け手となる利用者のヒアリングとボランティアグループのヒアリングを行う。（音訳・点訳を行っているボランティア団体など） ○市民と図書館が直接意見交換できるように。市民グループは、今後も直営維持を希望している。 ○高齢化率が高い地域の世代構成の流動化が予測される。若い人に魅力ある図書館本館づくりを。 ○図書館が多摩への移住を誘うセールスポイントになるとよい。 ○年齢を重ねたひとたち、障がい者、子どももいて賑わう図書館であってほしい。声を出してもよい、気軽に利用できるように施設。 ○図書館協議会の活性化 定数を元に戻して、若い方や障がい者グループの枠を設けたい。協議会も増回するよう考えたい。	○できるだけ効率化。 ICタグの導入で自動貸出や返却、書庫の出納も早くなると聞く。 ○個人貸出冊数は全国平均の倍の実績。サービスの成果としては成功。 ○コストを下げる工夫をするか、他のサービスの充実を目指すか。 ○リクエスト件数が多い。どう維持していくか。 ○組織そのものの見直しが必要。 ○常勤職員における司書割合は52.3%。嘱託職員の司書割合は100%。 ○多摩市の司書割合は全国では平均的 ○専門的な正規職員の採用や職員をどう動かしていくか検討が必要。 ○図書館の自己評価・外部評価の実施と公開を行うべき。
カルタ07/場・拠点館 カルタ11/場・地域館 ○企画展示は大切。 ○おはなし室がほしい。 ○おはなしコーナーの利用と一般利用者との調整。 ○広くはないのではしゃく声と調べ物の利用者がバツティング ○喫茶コーナー、ほっとする休憩コーナーはよい。 ○気軽に足を運べる空間。身構えずに入りやすい図書館。 ○高齢化社会。健康などの情報が得られる、気軽に身近に杖をついて行くことができる場所。 ○子どもが利用しやすい。 ○乳幼児期に絵本の読み聞かせができるスペース。 ○地域の居場所づくりを図書館が背負うことか、地域コミセンが提供すれば良いのでは。	カルタ08/活動・拠点館 カルタ12/活動・地域館 ○基礎調査や諮問答申どれも中央図書館の大切な仕事に、地域館を支援するとある。 ○反対運動もあって地域館が残ることになったが基本構想には、変遷がわかるような記述が必要。 ○活動室であかちゃんおはなし会をやっている。安全な、おはなしスペースがあれば。	○地域館・拠点館 本館と分館でよいのではないか。 ○拠点館は駅前であり、他市の分館と比べても規模が大きい。開館時間も長く、蔵書規模も大きい。ターミナルにあるので利用のされ方は違う。地域館と分けて考える必要はあるか。 ○大きな本館と小さな分館という運営もよいか検討。 ○唐木田図書館の委託運営。 市民からは直営化の検討を要望。 ○人口構成・ニーズの変化。 福祉行政に職員が必要になっていく。 ○正規職員から嘱託職員に業務移行を工夫しているが人員配置が厳しい。 ○直営で専門職がいて、どこの館でも同じようなサービスを受けたい。 ○地域の「貸出ニーズ」に応えることも重視。
カルタ15/場・ネットワーク ○地域館の老朽化、リニューアルの必要性。 ○大規模改修の時期にあわせ改修計画の研究を。 ○地域包括支援センター複合案。地域の人と議論を。 ○現在のサービスでの地区館とすると規模が小さい。 ○普段の生活で目につく位置、駅近くの市の用地に図書館に関わる情報を出すモニターが欲しい。	カルタ16/活動・ネットワーク ○学校で出前おはなし会。ボランティアが活躍。	○市の政策や将来予測も基本構想に反映。少ない予算をどう活用するか。 ○10年20年先に高齢化したところで世代交代が進み人口が増えるか、街の状況の見通しが大切。
図書館施設 ＜ひろば性＞	市民利用者 ＜市民性＞	マネジメント ＜持続可能性＞

◎ トピックス： 多摩市が進めている 地域関連プロジェクト について

多摩ニュータウン再生



平成28年3月に策定した「多摩市ニュータウン再生方針」のもと、多摩ニュータウンの再活性化と持続化を図っていきます。

本方針の取り組みを着実に進めることにより、大規模団地の更新や子育て世帯の流入等を促進し、住民の高齢化や団地等の経年劣化に対応していきます。

多摩ニュータウン 再生に向けた3つの個別目標

人と環境に優しい都市基盤・拠点構造へ再編する

惹きつけられ、住み続けられるまちを実現する

多様な主体が協働して循環型の地域サービスを育む

● 公共施設の見直しとの関連では……

現在、東京都が進めている都営多摩ニュータウン諏訪団地の建替えをはじめ、今後他の都営住宅についても更新が見込まれます。その際には、学校跡地等を建替え用地として活用したり、都営住宅との合築により、市の負担を抑えて施設の更新や整備を行うなど、公共施設の見直しと両立し、相乗効果が発揮できる方法を検討していきます。

健幸都市（スマートウェルネスシティ）



多摩市は、だれもが健康で、生きがいを感じ、安全・安心に暮らせるまち、みんなが笑顔で幸せを実感できるまち、健幸都市を目指しています。

健幸都市の実現に向けて、高齢者も障がい者も住み慣れた地域で生活を続けられるように、地域ぐるみで支える「多摩市版地域包括ケアシステム」の構築や、「歩くこと」、「外出すること」が楽しくなるような都市環境の整備、市民のつながりを育む取り組み等を進めています。

平成28年度は、市民ワークショップや外部有識者会議等にて、市が目指す健幸都市の姿やそれに向けた取り組みを検討していきます。皆さんの地域での活動が、明日の健幸都市につながります。

一緒に多摩市を健幸なまちにしていきたいと思います！



● 公共施設の見直しとの関連では……

公共施設の老朽化や厳しい財政状況の中でも、今ある施設の機能を地域の世代構成や新しいニーズに対応したものへ転換することや、ハード（施設）からソフト（事業）へ転換すること等により、将来にわたり持続可能な健幸都市を実現していきます。

安心して暮らし続けられるまちを目指し、 取り組みが本格的に始まります

人口減少や急速な高齢化等を迎える中、さまざまな課題や新たなニーズにも対応していくため、多方面から取り組んでいます。

公共施設の 見直しと将来像

みんなで考えよう
多摩市
政策情報誌
vol.3
（平成28年度）
持続可能な多摩市の未来に向けた挑戦

パルテノン多摩

● 改修により、多くの市民に親しまれる公共ホールへ再生

パルテノン多摩は、昭和62年に開館してから、文化芸術の振興だけでなく、年間50万人を超える集客による経済効果等、多摩センターににぎわいをもたらす施設となっています。築29年目に入った建物の設備等は使用の限界を迎えていますが、突然の不具合による利用停止や講演中止は避けなければなりません。さらに、文化芸術活動の拠点施設として市民に親しまれる、また自然と人が集まるような公共施設として再生するため、施設の大規模改修を行います。同時に、多摩中央公園をはじめ周辺施設と一体的な整備を行うことで、多摩センター全体の活性化を図っていく考えです。改修に向けた市民参加の基本計画策定委員会でご意見をいただきながら、市民の皆さんに親しまれ、愛される施設として平成32年度の開館を目指します。

4. 図書館本館の整備を進めます

図書館

● 本館の恒久整備と 図書館全体の仕組みの見直し

平成30年までの暫定として旧中学校校舎を改修し使用している本館は、施設の安全確保や図書館サービス全体の維持、時代に合わせたサービスへの向上を行うため、再整備します。本館整備と合わせて、図書館全体の仕組みを見直し、地域に必要なサービス内容や運営体制について検討します。

整備地については、鶴牧倉庫跡地から変更し、学校法人桜美林学園との間で、現本館用地と交換を進めている多摩アカデミービルズ用地の一部で整備する予定です。施設整備や維持管理については、民間のノウハウや資金を活用する方法を検討するとともに、土地交換で生じた差額の収入を整備費用に使用します。



図書館本館（旧西落合中学校）

鶴牧倉庫（旧管路収集センター）

● 売却や貸付等の再検討

図書館本館の整備予定地として民間施設との合築による施設整備を行う方向性を示していましたが、検討した結果、民間による施設整備のメリットが少ないことから、売却や貸付等に向けて検討を行うこととしました。



パルテノン多摩

※トピックス出典：
多摩市政情報誌 vol.3より